

あかるく かしこく たくましく

令和5年11月22日 No. 35 文責：校長 佐野紳二

作者が曲に込めた思い 「マイバラード」作者・松井孝夫さんのインタビューより

前号 (No. 34) で、私が好きな合唱曲を3曲 (マイバラード、友～旅立ちの時、スマイルアゲイン) 紹介させていただきました。「歌や本などの作品は、聞き手や読者のもとに届いた瞬間から、作者の思いを離れて聞き手や読者の思いと重なり、それぞれの人のものになる」なんていう話をどこかで聞いたことがあります、その作品をより理解するために、作者の思いを知りたい!と思うことは多々あります。 私だけでしょうか?



今回紹介した3曲について、あまり調べてみたことはなかったのですが、今回、たまたまそれぞれの歌について調べているときに、「マイバラード」の作者・松井孝夫さんのインタビュー記事を見つけました。とてもステキなコメントで、これを読むと「マイバラード」の歌の世界がさらに広がる感じがしたので、自分だけで留めておくのがとても勿体ないと思い、みなさんにも紹介させていただくことにしました。YouTubeなどの音源で「マイバラード」を聴きながら読んでいただけるとよいと思います。

「自分」という殻を破り、「新しい世界」へと飛び込むエネルギーから生まれた歌

マイバラードを語るとしたら、時代をさかのぼること、今から39年ほど前の、私がまだ高校生だったころにタイムスリップします。

私が人生の中で初めて外の世界へ、一歩自分から踏み出そうと試みたのは、ほかでもない、地域のボランティア活動に参加してみようと思ったことでした。

「何か人のためになることをやりたい」「けれど何をしたらいいのか、今ひとつわからない」そんな状況の中で出会ったのが、自立支援サークル「ぽっぽ」だったのです。構成メンバーは、車いすを必要とする重度の障害を持つ人 (主に脳性マヒといった病を抱えている方々)、またボランティアとして参加している人 (これは幅広くて、大工さん、郵便局員、会社員、消防署員、学生、その他いろいろな職種の方がいて、とても新鮮なものでした)。

活動の中身は、普段あまり外出できない車いすの人たちを、公園、デパート、映画館、音楽会などに連れていき、一緒に楽しいひと時を過ごすというもの。このようなコミュニティの中で、いろいろな人同士がコミュニケーションを交わす中で、「他者を理解する」ことの大切さや難しさを学びました。

サークル活動をするうちにほどなくして、みんなで楽器を奏で、歌をうたう音楽活動をするようになりました。ある秋のこと、ステージで発表する機会をいただきました。そこで自分たちだけのオリジナル曲を歌おうという話になり、「それならば」ということで即座に作った曲が「ぽっぽのバラード」のちの「マイバラード」でした。



歌に込めた思い

この詩の中で歌われる「♪みんなで」は、障害を持つ人も、持たない人も同じひとりの人間として、みんなで心をつなげて歌おうよ、というメッセージであって、私たちが今いるサークル「ぽっぽ」のみならず、広く世界の人たちにも呼びかけようとしています。

それに加えてもう一つ思いが重なっています。それは、ちょうどそのころ私は教員3年目で、まだまだ新米教師で、生徒の心をつかみきれず悪戦苦闘していました。そんな中で、目の前にいる中学生たちには「もっと心を開いて歌ってほしい」という願いが切実であり、そんな思いも併せて歌に込めました。

特に2番の歌詞に「仲間がここにいるよ いつも君を見てる 僕らは助け合って 生きていこう いつまでも」という部分では、友だち関係のことでいろいろと悩みを抱えている生徒の姿を思い浮かべながら、仲間を信じて前に進もうという強いメッセージを込めました。

そんなことで、「マイバラード」という曲は、自分自身が身にまとっていた殻を破って、新しい世界へと飛び込んでいったことで得たエネルギーから生まれた、私の記念すべき最初の合唱曲となりました。この歌は、みんなで心を合わせて歌うことで心が一つになり、互いがわかりあえたなら、どんなにか素敵なことだろう・・・そんな思いを詩に託して作りました。

いろいろな思いを持った「人間」ですが、思いを一つにすることで心が通い合い、素敵な世界を築くことができるはずです。そんな平和な世界をイメージして、この曲を歌ってもらえたらうれしいです。ひと言でいうならば、この歌は合唱賛歌なのです。

公益社団法人「小さな親切」運動本部HP・特別寄稿「マイバラード ～届けたいメッセージ～」より
<https://www.kindness.jp/2020/01/24/myballade/>

松井孝夫さんが学校の先生をされていたことは知っていたので、(余談ですが、卒業式でよく歌われる「旅立ちの日に」を作詞された小嶋登さんも、中学校の先生をなさっていました)きっとこの曲も中学生に向けたメッセージソングなのだと思っていました。松井さんが言うところの「もう一つの思い」については何となく感じながら歌っていた、ということになるわけです。ですが、この歌の冒頭にある「みんなで歌おう 心を一つにして」の「みんな」については、今回、初めて知ることができました。「マイバラード」という歌に出会って20年以上の年月が経過していますが、作者の松井孝夫さんの思いに触れられたことがとても嬉しく、私の中にある「マイバラード」に、さらに新しい色が加わった感じがしています。



インタビューの最後の部分で松井さんが語っている【いろいろな思いを持った「人間」ですが、思いを一つにすることで心が通い合い、素敵な世界を築くことができるはずです。そんな平和な世界をイメージして、この曲を歌ってもらえたらうれしいです。】という言葉は、学校通信 No.24 と 25 で書かせていただいた SDGs の17の目標のうち、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」、目標10「人や国の不平等をなくそう」、目標16「平和と公正をすべての人に」につながる言葉だと思います。ウクライナやパレスチナで多くの人々が傷ついている今、こうした歌の力が世界のいろいろなところに届くといいなあ…そんなことを思いながら、このインタビューを読ませていただきました。



【おまけの話1】 この松井孝夫さんのインタビューにはさらに続きがあり、その中では青年海外協力隊員としてパラグアイの子どもたちに音楽を教えることになった先生が、「マイバラード」をスペイン語に訳して子どもたちと一緒に歌った話や、松井さんがこれからの創作活動に向けた思いなどが語られています。興味がある方は、「小さな親切 松井孝夫」で検索してみてください。

【おまけの話2】 前号で小笠原小学校の教諭時代の話を書いたところ、すぐに、当時子どもだった1年担任と当時の話で盛り上がってしまいました。歌には時間を超えて、その頃を思い出させてくれる力があります。